

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★

## モガディシュ 脱出までの14日間

2021年/韓国映画

配給：ツイン、カルチュア・パブリッシャーズ/121分

2022(令和4)年8月20日鑑賞

シネマート心齋橋

Data

2022-101

監督・脚本：リュ・スンワン

出演：キム・ユンソク/チョ・イン  
ソン/ホ・ジュノ/ク・ギョ  
ファン/キム・ソジン/チョ  
ン・マンシク/キム・ジェフ  
ア/パク・ギョンヘ

## 👁️👁️ みどころ

モガディシュは1988年から長く内戦が続くアフリカの国ソマリアの首都。『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』（17年）を観れば、アフリカの某国における“中国版ランボー”の“人民のため・国家のための大活躍”が楽しめるが、反乱軍に首都が制圧される中、韓国と北朝鮮の大使たち一同の命運は？

2021年8月末限りとされたアフガニスタンからの脱出を巡って、世界に流れたニュースは悲惨なもの。“台湾有事”を巡る邦人救出のシナリオは今やっと検討され始めたが、その生きた教材が本作に！

1990年12月末、モガディシュでの“脱出までの14日間”は如何に？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■国連加盟を巡ってソマリアで票集め！時は1990年！■□■

1989年は天安門事件（6月4日）、ベルリンの壁崩壊（11月9日）に代表される世界的な激動の年だが、『64—ロクヨン—前編』（16年）（『シネマ38』10頁）、『64—ロクヨン—後編』（16年）（『シネマ38』17頁）で描かれたとおり、1989年は日本もわずか7日間だけしかなかった昭和64年から平成に移行した転換点であると同時に、バブル崩壊により“失われた30年”に移行した重要な年だ。そんな時、韓国や北朝鮮はどうだったの？

1989年当時の北朝鮮はまだ金日成の時代。今でこそ韓国との経済格差は大きく開いているが、当時は？他方、韓国は、軍事独裁政権から民主政権への転換を目指そうとしていた時代だ。そんな時代に、アフリカのソマリアはどんな情勢だったの？

1988年に発生した“ソマリア内戦”は今日までずっと続いているが、国連加盟への票集めを巡って、1990年当時、韓国と北朝鮮がソマリアで競い合っていたことを本作ではじめて知ってビックリ！そんな票集めの真っ只中にソマリア内戦が激化し、首都のモ

ガディッシュが反乱軍に制圧されてしまえば・・・？

## ■□■大統領との面会は？贈り物は？なぜ北の大使が？■□■

本作の冒頭は、ソマリアの空港に降り立ったカン・テジン参事官（チョ・インソン）からソマリア大統領への贈り物を受け取った“韓国大使ハン・シンソン（キム・ユンソク）様御一行”を中心に、いかにも韓国らしいコメディ風のストーリーが展開していく。これは現在、国連への加盟を悲願としている韓国が、最多の投票権を持つアフリカ諸国に行っている根回しの一つだ。

豪華な贈り物と共にソマリア大統領との面会が実現すれば、ソマリアの1票は確実にハン・シンソンはそう確信していたが、官邸へ向かう途中に北朝鮮大使館が密かに仕込んだ（？）現地の若者たちの襲撃によって贈り物が強奪される被害に遭い、わずか15分遅れるとすでに大統領は移動済み。そのうえ、翌日の面会では北朝鮮のリム・ヨンス大使（ホ・ジュノ）とテ・ジュンギ参事官（ク・ギョファン）に鉢合わせしてしまったからヤレヤレ。「妨害工作をするな」と怒るハン大使に対して、逆にリム大使からは、「我々は南より20年も早くアフリカと関係を築いてきた」と言い返される羽目。

五輪の誘致合戦も大変だが、国連加盟への“清き1票”を求める政治工作も大変だ。1990年当時のそんな工作の中にも、韓国と北朝鮮の“南北対立”があったことを知ってビックリ！

## ■□■モガディッシュ陥落！暴徒の動きは？各国の大使館は？■□■

アフリカの某国で起きた内乱で、“中国のランボー”と呼ばれる主人公が、中国人民と祖国のために大活躍した大ヒット作が『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』（17年）（『シネマ41』136頁）だった。同作がソマリア内戦をネタにしていることは明らかだが、本作では、ソマリアの大統領府における韓国 VS 北朝鮮の攻め合いの真っ最中に、反乱軍が首都モガディッシュを制圧するシークエンスになるので、それに注目！

2年前に勃発し、日に日に激化していた内戦が、首都まで、さらに大統領府まで及んだことにビックリだが、そこでの内乱軍の主張は、「人権、宗教、民主化を弾圧してきた不道徳で腐敗したバーレ政権を援助する国は、すべて敵だ」というものだったから大変。街に溢れた暴徒は、「独裁政府に協力した各国政府は出ていけ！」と各国の大使館に石や火炎瓶を投げ込んだから、通信手段は絶たれ、韓国・北朝鮮の両大使館も完全に孤立することに。韓国はカン参事官の交渉力と押しの強さでソマリア警察に大使館の警備を約束させたが、北朝鮮の大使館は・・・？

## ■□■石田三成はどこへ脱出？北の大使は？韓国の対応は？■□■

私は司馬遼太郎の小説が大好き。その代表は『坂の上の雲』と『竜馬がゆく』だが、『関ヶ原』も大好きな小説の中の一つだ。近江出身で“文治派”の石田三成と、豊臣秀吉子飼いの武将で“武闘派”の加藤清正や福島正則らは、朝鮮出兵を契機として犬猿の仲になっていた。そんな中、豊臣秀吉が死去した翌年の1599年に盟友・前田利家が亡くなった

ことを受けて3月3日に勃発したのが、七将による「石田三成襲撃事件」だ。三成は何か伏見城内の自分の屋敷に逃げ込んだが、そこで助けを求めたのが、最も警戒していた相手・徳川家康。石田三成が徳川家康に助けを求めたのは、一体なぜ？

同小説前半では、生き生きと描かれたその描写が一つの山場になっていたが、本作では、北朝鮮のリム大使たちが家族を連れて、暴徒たちに襲われた北朝鮮の大使館から中国大使館へ逃れようとする姿が描かれる。しかし、燃え上がる中国大使館を見たリム大使は、やむを得ず武装警官に守られた韓国大使館に助けを求めることを決意。テ参事官が「帰国したら粛清される！」と猛反対したのは当然だが、リム大使はなぜそんな決断を？他方、幼い子どもたちを含む北朝鮮大使館からの脱出者たちを目の前に見たハン大使の対応は？大統領府であれほど苦汁を飲まされたハン大使は、果たして彼らを受け入れるのだろうか？

### ■□■ “転向書” を巡る南北の確執は？共同歩調は？ ■□■

人間は立場や地位によってその顔や対応を変えるものだが、本作では苦境が増すにつれて、当初あれほど対立していた韓国のハン大使と北朝鮮のリム大使が共同歩調を取ろうとする姿が目立ってくる。しかし、同じように対立していたカン参事官とテ参事官の対立はむしろ強まっていくので、それに注目！

北の大使館からの脱出者たちをハン大使が丸ごと受け入れたのは大英断。しかし、警戒心と緊張感が最高潮に達する中、カン参事官は全員を韓国に亡命させて手柄にしようとして画策し、預かったパスポートの名前で“転向書”を偽造したから、さあ大変。それを発見したテ参事官との間で殴り合いになったが、2人が争う間に、カン参事官に追加料金を拒否された武装警察が逃げてしまったから、韓国大使館もヤバイことに。そこで、今は南北で争っている場合ではないと腹をくくったハン大使は、とりあえず「協力して逃げ道を見つけよう」と提案。リム大使はこの提案に対し合意し、2人は「戦場から生きて帰るためだ」と激しく対立する参事官たちを説得したが・・・。

### ■□■ 救護機の乗れるのは誰？救護機へのカーチェイスは？ ■□■

“台湾有事”の際の邦人保護（救護）をめぐる議論が日本でもやっと始まったが、本作では、1990年から91年にかけての14日間における、ソマリア内戦下の首都モガディシユからの韓国人と北朝鮮人の救護（脱出）のあり方がリアルに(?)描かれる。

まず、確保しなければならないのは救護機だが、そもそもそれが困難。アフガニスタンからの米軍撤収を巡って、撤収期限たる2021年8月末に向けて起きた惨劇は、目を覆うものだった。モガディシユでもそれと同じこと、いや、それ以上の惨劇が起こる可能性が高かったが、ハン大使とリム大使が南北双方の関係国に脱出への協力を要請した結果、韓国とイタリアとの間で赤十字の救護機が確保できたのは超ラッキー。しかし、そこでの関門は国交のない北朝鮮側の同乗をイタリアが拒否したことだ。これについては、ハン大使が「全員が南に転向した」と嘘をつくことで何とかクリアできたが、すべての道路が反乱軍や暴徒で溢れている中、数台の車に分乗した南北合同の脱出組は、どうやってイタリ

ア大使館までたどり着くの？

映像の技術が進歩した昨今は、カーチェイスの迫力を売りにするスパイアクション映画が多い。かつてのリュック・ベッソン監督の『TAXI』シリーズは、それとは異質の独特なカーチェイスを売りにしていたが、本作のクライマックスに見るカーチェイスは？戦車ならいくら銃撃を受けても平気だが、乗用車ではジェームズ・ボンド用の特別仕様車以外それは無理。しかし、車の周りを古書で覆えば、戦車と同じようになるのでは・・・？それが本作を監督したリュック・スワン監督のアイデアのようだが、その出来は？私はそんなバカな設定に大反対だが、あなたの賛否は？

## ■□■どこまで共同歩調を？どこから別歩調に？■□■

はじめて政権交代を実現させた金大中政権（1998年～2003年）以降の韓国は、保守と革新が5年毎の政権交代を巡って激戦を繰り返している。2022年5月に新たに発足した尹錫悦政権は、8月の今、米韓軍事共同演習の強化を巡って、北朝鮮との対立を激化させている。近時、新たにTVに頻繁に登場している、金正恩の妹である金与正氏の韓国攻撃の言葉は手厳しいが、それでも1990年当時の南北対立よりは、ずっとマシ！

すると、あの反乱軍と暴徒からの銃撃を受ける中、あのド派手なカーチェイスによって、無事制限時間内にイタリア大使館に到着し、無事救護機に南北合同の脱出組が乗り込めたとしても、到着後はどうなるの？それを象徴するかのように、救護機が降り立った韓国の空港には、脱出組を4つの組に分断する4台のバスが待機していたから、それに注目！

首を長くして待っている家族と再会できるハン大使をはじめとする韓国大使館の人々は喜びいっぱいだが、リム大使をはじめ北の大使館の人々を乗せたバスは、これからどこへ向かうの？その行先は、朝鮮民主主義人民共和国の首都・平壤だろうが、“転向者”のお墨付きを得たことによってモガディシュからの脱出を可能にさせた彼らには、これから一体どんな“粛清”が待ち受けているのだろうか？それを考えると・・・。

2022（令和4）年8月25日記